

最優秀賞

障害のある人もない人も 皆が生き生きと働ける 職場づくりを目指して



有限会社化成フロンティアサービス



化成フロンティアサービスは、三菱化学黒崎事業所内の広大な敷地の中に所在する。

企業プロフィール

有限会社化成フロンティアサービス

代表者：代表取締役社長 大平教義

〒806-0004 北九州市八幡西区黒崎城石1-1

TEL093-643-4390

FAX093-643-4393

業種および主な事業内容

サービス業

OAセンター、メール・写真センター、パーソナルサービスセンター、
アグリカルチャープロジェクト（例：自然農法による野菜づくり）ほか

従業員数

109名（平成17年3月現在）うち障害者数64名

<内訳>

視覚障害者3名（うち重度3名、重複1名）、聴覚障害者9名（うち重度5名、重複2名）、肢体不自由者39名（うち重度30名、重複1名）、内部障害者8名（うち重度5名）、知的障害者4名（うち重度2名）、精神障害者1名

事業所の概要と障害者雇用の経緯

平成5年3月、障害者の雇用促進を図り、企業の社会的責任を果たすために、三菱化学株式会社（当時はその前身・三菱化成）の特例子会社として現在地に設立、同年12月の事業開始時の従業員数29名のうち障害者は18名（うち重度13名）であった。

視覚障害者については、視覚障害者のための専門学科をもつ筑波技術短期大学より企業実習を受け入れ後、平成11年と14年に全盲の卒業生を各1名採用し、現在3名の視覚障害者を雇用している（うち1名は重複障害で、視覚障害については視野狭窄および弱視で一般業務上の支障は特にない）。

三菱化成発祥の地に誕生した ノーマライゼーションを目指す障害者のための特例子会社

三菱化学グループがバックアップ するオフィスサービス業

有限会社化成フロンティアサービスがある三菱化学黒崎事業所は、三菱化学の前身である三菱化成の発祥の地。東西2キロ、南北1キロ、約60万坪の敷地内には関連会社を含めて約3,000名の従業員が三菱化学を中心にさまざまな業務を行っている。

三菱化学にとって歴史と伝統のあるこの地は、同時に人脈も仕事も豊富な場所でもある。黒崎事業所に「障害者の雇用促進を図り、企業の社会的責任を果たす」ために、三菱化学の特例子会社として化成フロンティアサービスが誕生した理由は、三菱化学グループとしてバックアップしやすい条件が揃っていたからである。社名に化成が付くのもそのためだ。

ここには、情報社会を支えるCD基板の材料、プリンターのインクから自動車用タイヤのカーボンブラックなど、多種多様な化学製品を製造している三菱化学をキーステーションに、工場のメンテナンスを行う企業、その原材料や製品の搬出入を行う企業、IT関連企業など、さながら化学工業のデパートのような企業集団が形成されている。

三菱化成（後の三菱化学）が100%出資の有限会社特例子会社として、平成5年3月に、障害者雇用促進のために設立した同社は、これらの事業所のオフィスサービスを中心に各種のビジネスサービスを受託する企業としてスタートすることになった。

すべての従業員にとって 働きやすい職場環境をつくる

前述したように、事業を開始した平成5年当時は従業員29名のうち障害者が18名であったが、現

在は109名の従業員のうち障害者は64名（うち重度障害者数45名）を占める。

そのうち、視覚障害者は3名、聴覚障害者は9名、肢体不自由者が最も多く39名である。また、内部障害者はペースメーカーを使用する心臓疾患患者や人工透析を行っている者などが8名いる。そのほか知的障害者4名と精神障害者(てんかん)が1名いる。

このように、多数の障害者を雇用している同社では、安全・健康と仕事を両輪として掲げ、特に障害者の安全と健康に配慮した企業経営を続けている。

障害者が6割を占める企業のため、8時半～17時15分の勤務時間中にケガをしたりしないように、何よりも安全面と健康面に配慮している。その結果、平成15年11月に無災害90万時間で表彰されたほど。現在も無災害記録を更新し続けている。

ソフト面でもバリアフリー化が 図れるように工夫

安全面で配慮するといっても、基本的な考え方は、さまざまな障害者および健常者を含むすべての従業員にとって働きやすい職場となる「ノーマライゼーション」を目指すことである。したがって、職場改善についても、特に視覚障害者を意識したものではなく、皆が普通に働きやすくするという観点から取り組んでいる。

ソフト面では、挨拶・声かけをすることを基本に、お互いの体調管理をしながら明るい職場づくりを目指していくことに重点を置いており、聴覚障害者を講師として手話の勉強会を各職場で続けている。また、職業コンサルタントや生活相談員

を配置し、仕事や生活面で必要に応じたサポートを行うようにしている。このような対策や活動を通じて、すべての従業員が相互理解を深め、ソフト面でのバリアフリー化が図れるように努めている。

化成フロンティアサービスでは、さまざまな障害者が働いている。通路幅はゆったりとした職場レイアウトになっている。



社員への受け入れ教育

本人への教育研修

設備改善

支援機器導入

職域・能力開発

介助者

意欲・意識改善

障害者雇用の推進に尽力

ハード面での職場改善は さまざまな障害を考慮して

ハード面では、安全対策でのバリアフリーが主体となる。しかし、場合によっては難しい問題もある。

例えば、視覚障害者のための点字ブロックは車椅子利用者にとっては、突起物として段差障害になる。逆に、車椅子利用者のための歩道と車道のバリアフリーは、視覚障害者にとっては歩道と車道の区別がなくなり、かえって危険になる。

このように障害の種類によって一方のメリットが他方のデメリットになることもあり、ケース・バイ・ケースで全体的に有効となるような対応が重要になってくる。

同社では、常にそのような観点からさまざまな障害者のことを考慮しながら、1.5m幅の通路を確保、要所はすべり止めの材質を使用、扉は基本的に自動扉、休憩室には簡易ベッドの設置など、ハード面での職場改善についてもきめ細かく取り組んでいる。

さらに現在、視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者各1名の計3名が住む三菱化学の単身赴任者寮（一般従業員30～40名と同居）では、警備会社と契約、万一の場合の安全対策を講じている。

頼れる「ビジネス・コンビニ」に

組織的には、まず一番大きいIOAセンターではデータ入力・出力処理、印刷用版下作成、名刺・はがきなど印刷物全般、書籍類出版、ホームページ制作、CAD、プログラミング、ビデオ制作、事務代行など、OAから編集・印刷関連の総合窓口となっている。

メール・写真センターは、メール部門と写真部門から構成され、それぞれ次のような業務を行っている。メール部門は、三菱化学グループ黒崎事業所内約110カ所の集配と、東京、大阪、北海道など各場所間の集配業務を行う社内集配便、社内報などの袋詰め・仕分け・発送業務、宅配便受付、切手・はがきなどの販売業務、切手管理・切手貼り代行業務、およびパスポート申請書の作成などを行っている。写真部門は、各種写真撮影、入門証作成、デジタルカメラ対応のDPE受付、フィルム、インスタントカメラの販売などを行っている。

パーソナルサービスセンターは、給与・年金・健康保険など人事関連事務や健康診断の業務を行っている。この部門はもともと三菱化学の人事関係のメンバーが仕事と一緒に移籍したもので、現在はすべて健常者が業務を行っているが、将来的には障害者を配属したいと考えている。

アグリカルチャープロジェクトは、自然農法での野菜づくりや木炭づくり、椎茸栽培、洋ラン栽培などを実験的に行っている。健常者2名、肢体不自由者1名、知的障害者2名のまだ小さな組織である。

このほか、三菱化学四日市事業所内に4名が所属する四日市営業所が活動しており、これらが総力を挙げて、「頼れるビジネス・コンビニ」をスローガンに、業務を遂行している。現在、年間売上高約7億円でグループ内の仕事が大半だが、営業努力により約4%ほどグループ外からの受注となっており、わずかながらも利益を計上し、健闘を続けている。



OAセンターのオフィス。視覚障害者2名、中村忠能さんと中村真規さんの席は入口左側に設けてある。